

1. 中国武漢で新型コロナウイルス

- 中国の武漢市で新型コロナウイルスが原因で、大量感染と大量死が発生し、武漢市は完全封鎖され、ロックダウンされた。
- この新型コロナは、武漢ウイルス研究所の職員が感染したことから、あっという間に武漢市全体に感染拡大し中国全体にも感染拡大していった。
- 中国人旅行者により新型コロナが世界に拡散され、欧米やアジア、日本へさえも感染拡大し、各国で何万人もの人々に感染し、何千人もの死者が出ってしまった。
- しかし、世界では未知の新型コロナウイルスでしたが、武漢ウイルス研究所では、自分の研究所で開発したコロナウイルスだったから、遺伝子情報を持っていた。

2. 新型コロナワクチン

- 世界での新型コロナ感染拡大と死者急増に対して、コロナワクチン開発を急務とし唯一の新型コロナ対策の希望として、未知の mRNA ワクチン開発に着手せざるを得ません。
- しかし、mRNA ワクチンはウイルス遺伝子情報が無いと作れないものなので、唯一コロナ遺伝子情報を持っている、コロナウイルス開発していた中国から遺伝子情報が提供され、ファイザー社やモデルナ社などの世界のワクチン開発会社で、新型コロナワクチン開発が開始された。
- mRNA コロナワクチンは、まだ開発段階だったので、2023 年まで治験期間として世界各国が治験を受け入れる契約を、ワクチン会社とするしかありませんでした。治験期間の薬に対して、投薬者たちは訴えことができない上、たとえ死んでも慰謝料を取ることも出来ません。
さらに契約期間があるので、国としては、この治験期間に国民に不具合があってもワクチン接種を継続するしかない。
- コロナウイルスの特徴は、変異を繰り返すことで、感染した一人の人の中でも変異をしているということです。つまり、新型コロナが武漢で造られて内部感染して外部に流出した時から、変異を繰り返しているのです。
いつか、武漢コロナ遺伝子情報から開発されたコロナワクチンが、効かないほど大きく変異したコロナウイルスが、どこかの国で出現するのではと恐れられてきた。
- インドで感染爆発した、コロナのデルタ株がワクチン接種した人々に次々に感染してしまい、インドはロックダウンすることになった。
ついにコロナワクチンが効かない新型コロナの変異が起こってしまったのだ。
しかし、世界の国の政府政策は、コロナワクチン接種の続行でした。ワクチン供給会社との 2023 年までの治験契約があるからである。

3. mRNA ワクチンと免疫反応の性質

- mRNA ワクチンとは、ウイルスの遺伝子情報から一部を取り出し、この遺伝子の塊の外側に外皮を作り、外皮の外側にスパイク状のたんぱく質を取り付けた、人造ウイルスである。
- このスパイクタンパク質の特徴は、mRNA メッセンジャーRNA と呼ばれ、人間の体の中で受容体レセプタと結合し、この人造ウイルスと同じものを体の中で大量にコピー量産させ、免疫反応を起こさせ、新型コロナ特定免疫を形成させるものです。
- 人間の体の特徴として、自然免疫力であらゆる細菌やウイルスに対する免疫力を発揮していますが、自然免疫を突破した細菌やウイルスが入って来ると、それに対する特定免疫力が形成され、結果として自然免疫力が低下する性質がある。

4. mRNA ワクチンと副反応

- 私たちの体の中で、mRNA ワクチンにより人造ウイルスが大量に生産され、無数の mRNA スパイクタンパクが血管の血液中を流れ、体中で無数の血栓症を起こし、数々の疾患となる。
血栓症による症状は、血行不良や動脈瘤や壊死や機能障害や血管破裂である。
- スパイクタンパクが、体の臓器に蓄積されて、機能不全を起こす。
心臓疾患、肺炎、脳梗塞、腎臓病、目の視力低下、耳の聴力低下、卵巣(不妊、流産)、精巣など、毛細血管の多い臓器に蓄積されやすい。
- コロナワクチンの免疫反応による、発熱暴走や蕁麻疹や帯状疱疹や自己免疫障害など。
- 同型のワクチンを3回以上摂取すると、アナフィラキシーショックを起こす。
- 持病のある人は、症状の悪化や死に至るケースも現れます。
- 認知症やアルツハイマーの悪化の加速。
- 原因不明の突然死多発。心不全など。

5. mRNA ワクチンとデルタ株以降のコロナ

- もし、mRNA ワクチン接種をした体に、大きく変異してコロナワクチンが効かなくなったコロナウイルスが入って来たなら、特定免疫力が効かない上に自然免疫力が低下していて、新型コロナウイルスに全く効かず、結果的にコロナに感染し重症化してしまう。
- コロナのデルタ株以降が、まさにコロナワクチンが効かない新型コロナだったのだ。つまり、コロナのデルタ株以降の変異株であるオミクロン株に至っては、ただの風邪なうえに、更にコロナワクチンが効かなくなっているため、無力なコロナワクチンなのである。それだけでなく、コロナワクチンは副反応の害が体にあるだけの、有害人造ウイルスとなってしまった。
- 残念なことに、コロナワクチンで特定免疫力を付けた体は、免疫システムの関係で自然免疫力が低下して、その他の病気にかかりやすい虚弱体質になってしまう。言うならば、コロナワクチンは万病の元であり、過去の mRNA ワクチンの経験と同じで、過去 mRNA ワクチンは使用禁止にされてきた歴史がある。
- 過去も現在も mRNA ワクチンは、繰り返し摂取が危険な構造であると世界の科学者たちに指摘されていて、サイトカインストームという免疫暴走を起こし、数々の炎症性疾患と血栓症と持病悪化が起こり、最悪の場合は死亡者が急増すると言われています。

* 厚労省の超過死亡者数データを掲載したが、接種率が上がると死亡者数も上がっている。

